よりよい授業をめざして　～授業改善推進プラン～　　1年

	実態・課題分析	授業改善の手だて
国語	・文字をまとまりとしてとらえることが難しく読む能力に個人差がある。 ・ひらがなやカタカナの定着、語彙数、文章を書く能力に個人差がある。 ・最後まで集中して話を聞くことについて課題がある。	・音読を行う際、文字をまとまりとしてとらえられるよう指導する。 ・個、ペア、全体など、読み方を工夫し、努力や上達を認め意欲を高める。 ・授業や宿題で、文字の書き取りや言葉探しの練習を取り入れる。書き方の手順、言語学習も段階的に指導し、表現に自信をつけさせる。 ・聞く必要のある場面を意識して作り、確認をしながら根気強く指導する。
算数	・既習事項を使って解決する力に課題がある。 ・たし算、ひき算の計算の習熟が必要である。 ・問題文の意味を理解して立式することについて課題がある。	・家庭学習のプリントなどにおいてスモールステップで進めることができるようにする。 ・繰り返し計算を行い、見直しをする習慣を身に付けさせていく。また、計算チャレンジ（計算クエスト）を実施し、計算の基礎基本の習得を目指す。 ・場面絵を用意したり、言葉の説明をしたりすること で、場面の状況を想像しやすくさせる。また、文章題にたくさん触れて、立式に慣れさせる。
生活	・意欲的に取り組んでいるが、見たことや気付いたことを表現する力に個人差がある。 ・学校探検を通して、校内の様子を知り、学校の一員として学校生活の楽しさを味わうことができた。	・観察の視点を明確に示し、観察できるように指導する。観察文を書く際、国語の授業にもつなげる。 ・人とのかかわりが学校探検だけでなく、継続的に行えるように計画的に行っていく。
音楽	・曲想を感じ取りながら歌っている。歌詞の内容との関わりなどに着目し、どのように歌うかについて思いや意図をもつことができるようにすることが課題である。 ・拍にのってリズムを打ったり、運指に気を付けて鍵盤ハーモニカを演奏したりすることができる児童が多い。楽器の音色と演奏の仕方の関わりに気付いて演奏する技能について、更に伸ばしていく。 ・音楽の楽しさを感じ取って聴くことができ	・互いに意見や考えを伝え合う活動を通して、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関係についての気付きを共有するようにする。 ・鍵盤ハーモニカについては、個別指導の時間を確保するようにする。 ・教師や友達の演奏を聴いたり、奏法を試したりしながら、思いに合った表現をするために必要な技能を身に付けることができるようにする。 ・自分の考えを、体を動かす活動や言葉で伝え合

	ているが、それを表現する能力に個人差がある。	う場面では、一人一人の感じ方のよさを積極的に価値付けするようにする。
図画工作	・楽しく創造活動に取り組むことができる。 ・どのような作品を作るかを悩み、作業にとりかかることができない児童に対しての手だてが必要である。 ・指先を思うように動かせない児童や道具の使い方に慣れていない児童に手だてが必要である。	・児童が興味をもって、意欲的に最後まで取り組める題材を用意する。鑑賞活動を通し、自分や友だちの表現の違いや良さに気付き、次への創造活動につなげる。 ・指先を使う活動や、道具の使い方の学習を繰り返し行うことができるよう、時間をかけて基本的な道具を使う技能を育てる。
体育	・体を動かすことが好きで積極的に取り組むことができる。 ・運動は、技能や体力、経験等の個人差が大きい。 ・活動に対して、みんなでやり方を工夫するような経験を意図的に取り入れる必要がある。	・めあての設定を工夫し、自らの成長が分かるような声掛けを行い、更に意欲を高める。 ・様々な運動経験ができるよう、計画的に進める。学習プロセスを工夫し、課題を解決していくことで苦手意識を和らげる。 ・運動遊びに取り組む中で、工夫や考えたことを他者に伝える活動や時間を設ける。
特別の教科　道徳	・きまりを守る大切さを理解している児童が多い。 ・友達に対して思いやりある言葉をかけるなど、友達を大切し、すすんで関わろうとする児童が多い。 ・友達関係の中で、つい自分本位な行動や、気持ちをうまく表現できない児童への手だてが必要である。 ・トイレの使い方が乱れていたり、机に落書きをしたりするなど、公共の物や場所を大切にすることのできないことがある。	・登場人物の心情を考える活動を通して、様々な立場の人の心情を考えることができるようにする。また、気持ちを文章や言葉で表現する活動をくり返し行う。 ・展開後半の、自己を見つめる時間を十分に確保する。教材を通して学んだことや感じたことと自身の生活が結びついていることを理解させる。

よりよい授業をめざして　～授業改善推進プラン～　　２年

	実態・課題分析	授業改善の手だて
国語	・既習漢字の定着が必要である。	・授業の中で漢字練習時間を確保するとともに、既習の漢字を書く場面を設ける。毎日の家庭学習と確認テストの実施で定着させる。
	・拗音や促音を用いたり、順序を考えたりして文を書くことについて課題がある。	・手本や構成表を基に、順序よく作文を書かせ、拗音や促音、かぎなどの使い方を習得させる。
	・読書をすすんで行う児童が多いが、読む本のジャンルに偏りがある。	・図書などの読み聞かせを通して、様々なジャンルに触れられるようにする。
算数	・「長さ」や「水のかさ」など、量の感覚に関する操作や経験が不足しているため、量を捉える力を定着させる必要がある。	・体験を通じ、単位の量や関係性を視覚的・体感的に理解させる。また日常生活の中で繰り返し活用することで、感覚を定着させる。
	・「何時の何分前」や「目標時刻に到着するための出発時刻の逆算」など、応用的な時間の問題に課題がある。	・時計模型の操作と数直線で視覚化を行う。日常生活と結びつけた問題解決を通して、逆算的な時間の捉え方を習得させる。
	・計算力の定着に個人差がある。	・計算クエスト、デジタルドリルを活用し、基礎学力の向上を図る。宿題等で定期的にプリントを課し、既習事項の忘却防止と定着を図る。
	・文章問題のイメージがつかず立式ができない児童が多い。	・問題文を短く区切ったり、簡単な図や絵へ置き換えたりして、場面のイメージ化と立式を連動させる。
生活	・観察したり世話をしたりすることを通して、植物には関心が高まる一方で、動物については学習当初から苦手意識がある児童が多い。	・学習支援者を招聘し、児童に対して動植物のおもしろさや不思議さを伝えるとともに、デジタル教材も活用して児童の興味・関心を高める。
	・活動や体験を通して得られた「気付き」はあるものの、気付く事柄の多さに個人差があり、表現力も乏しい。	・気付きの質を高めるために、学習カードをポートフォリオ化し、学習の経験をいつでも振り返られるようにする。また、気付いたことをカードや付箋紙を用いてまずは短文で書き表せるようにするとともに、継続的な視点をもって観察や体験を行えるようにする。

よりよい授業をめざして　～授業改善推進プラン～　　３年

	実態・課題分析	授業改善の手だて
国語	・漢字の習得に個人差がある。	・なぞり書きや空書きで字形を丁寧に確認させ、ドリルのテストを用いて定期的に習熟の確認を行う。デジタルドリルも活用し基礎学力の定着を図る。繰り返し練習させ、学期２回の漢字 50 問テストで成果を確認する。
	・文章の叙述を根拠に心情や様子を読み取る力に個人差がある。 ・書く意欲はあるが語彙が少なく、自分の思いを様々な言葉で書き表すことに課題がある。また、内容の中心を分かりやすく書くことに課題がある。 ・事柄の中心を考えて話したり、聞いたりする力に個人差がある。	・辞書を使用して語彙を増やしたり、文章の構成を理解させたりするような指導を行う。 ・日記を書く時間を定期的に作り、書き方を定着させたり 、個別で書くことを指導できる時間を確保したりする。特に読み合いを日常的に行えるような環境を整える。 ・友達の発表の後に意見や感想を伝え合う機会を多く設定する。人の話に対して自分の思いや考えをもつことを意識させる。
社会	・見学や自分で調べる学習への意欲は高いが、学んだことを自分でまとめていく力を身に付けていく必要がある。	・新聞、リーフレット、ポスターなど、様々なまとめ方を経験させる。学年末には、一人１台端末を使い、スライドでまとめる経験をさせる。また、グループで話し合ってまとめる機会を設ける。
	・学習問題を基にして、自分で調べ学習を進めまとめていく、という社会科の学習方法の経験が不足している。 ・地図や資料から分かることを自分の言葉で書く力に課題がある。	・問題解決型の学習プロセスを丁寧に指導し、学習問題作りや、学習計画作りを経験させ、主体的に学習する力を身に付けさせる。 ・少しずつ、地図帳を使う経験を積み重ねていく。また、一人１台端末でストリートビューやグーグルアース等も活用する。 ・写真やグラフ、文章等、様々な資料を読み取る際には、「比べる」「全体で見る」「部分で見る」など、読み取る視点を与え、資料ごとにどの視点が使えるかを考えさせる。
算数	・学習中は学習内容をしっかりと理解している児童が多いが、学習後の既習事項の定着が課題である。	・計算クエスト、デジタルドリルを活用し、基礎学力の向上を図る。
	・計算問題はできるが、計算の意味を説明する力に課題がある。	・習熟度別でクラス分けをして、既習事項の復習をしながら本時の学習を行うなどスモールステップで進めたり、早めに進めて課題を増やしたりするなど、個に応じた指導の工夫をする。
	・文章問題の題意を理解し、立式することに課題がある。	・問題を図や数直線に表すなど、文章問題の解き方を細分化してスモールステップで指導する。

よりよい授業をめざして　～授業改善推進プラン～　　４年

	実態・課題分析	授業改善の手だて
国語	・自分の考えや思いを表現することに課題がある。 ・漢字の習得に個人差がある。 ・文章の叙述を根拠に心情や様子を読み取る力を身に付ける必要がある。 ・語彙が少なく、自分の思いを様々な言葉で書き表す力を身に付ける必要がある。 ・文章の組み立てを考え、内容の中心を分かりやすく書く力を身に付ける必要がある。 ・事柄の中心を考えて話したり聞いたりする力を身に付ける必要がある。	・ペア学習や話合いの活動を定期的に取り入れる。 ・なぞり書きや空書きで字形を確認させ、ドリルテストを用いて定期的に習熟の確認を行う。また、ミニテストの練習の機会もつくる。学期２回の漢字まとめテストで成果を確認する。 ・叙述や言葉の有無によって受け取り方がどう変わるかを考えさせ、叙述の有用性を確認させる。 ・国語辞典を日常的に使用し、語彙を増やす。 ・構成表を基に文の組み立てを考えさせ、下書き、推敲、清書、交流などのように、計画的、段階的に指導する。テーマやポイントを提示した日記を課題として設定する。 ・注目すべき視点を確認し、要点を捉えて話したり聞いたりできるように指導する。
社会	・資料から読み取って、まとめる活動への意欲が高い。 ・見学や自分で調べる学習への意欲は高いが、学んだことをまとめる段階での粘り強さや発展させる力に個人差がある。 ・学習する社会事象について関わりのあるものとないものとの区別がつきにくく、適切に課題を設定する力を身に付ける必要がある。 ・地図や資料を読み取る力を身に付ける必要がある。	・一人１台端末を用いてまとめる活動を繰り返し行う。 ・グループ活動をすることで助け合い学び合う力を身に付けさせる。また、単元の終末にノートでまとめを行い、学習内容の大切なことや感じたことなどをまとめる力を養う。 ・調べたい事柄をグループ分けしたり、取捨選択したりしながら、課題となりうる疑問を整理させ、適切な課題設定ができるように指導する。 ・見学時に実際に通った道や見学場所を地図と対応させて確かめたり、地図帳や一人１台端末のストリートビューやグーグルアース等を活用して地図に慣れさせたりさせる。
算数	・既習事項や基礎基本の学習が定着している児童と、そうでない児童の個人差が大きい。	・計算ドリルに繰り返し取り組んだり、一人１台端末を活用したタブレットドリルに朝学習で取り組んだり、繰り返し行うことで定着できるようにする。 ・計算クエストの年間実施を通して、基礎的な計算力の礎を作る。 ・習熟度別のクラスで、既習事項の復習をしてから本時の学習を行うなど、スモールステップで進めたり、早めに進めて課題を増やしたりする

よりよい授業をめざして　～授業改善推進プラン～　　５年

	実態・課題分析	授業改善の手だて
国語	・漢字ドリルを活用し、小テストを行うことで定着に努めているが、漢字の習得に個人差がある。	・なぞり書きや空書きで字形を確認させる。学期２回の漢字まとめテストで成果を確認し、再テストを行うことで定着を図る。文章を書くときは、漢字を使うよう声掛けする。
	・自分の考えを順序立てて表現することが十分でない。	・自分の考えや意見を考える時間を確保する。自分の考えを振り返る時間を増やす。
	・目的や意図に沿うことや、語を適切に使用した文章を書くことに課題がある。	・文章のモデル文を示したり、文章の型を与えたりして、書き方を学びながら書く時間を増やす。
社会	・資料を正しく読み取ったり、読み取った情報を結び付けたりすることに課題がある。	・資料の読み方や、そこから分かることをクラス全体で確認する時間を設ける。読み取りやすい資料から順番に提示する。資料の読み取りを行う活動の際には、注目させたい資料を取り上げて、資料の名前や表示されている内容など、一つ一つの要素を児童と共に確認して、資料の読み取る時間を充実させる。
	・問いを正しく読み取り、学習内容を用いて問いに対して正対した回答をすることに課題がある。	・１時間の学習で学んだことを自分でまとめる活動を行う。また、まとめ方が上手な児童を紹介しながら、まとめ方を知るようにさせる。
	・学習課題を自分のこととして捉え、ICT 機器を用いて意欲的に調べることができる。主体的に学習に向かうことが、次の課題であると考える。	・ICT 機器を活用した活動を多く取り入れ、学習に主体的に取り組むことができるようにする。また、調べ学習等、自ら学習問題について調査してまとめる学習活動では、どのような方法で調べるのか、どのような方法でまとめるのか、個人で行うのか集団で行うのかなど、学習方法の選択をできるようにする。
算数	・基礎、基本の学習や既習事項が定着している児童と、していない児童の個人差が大きい。	・習熟度グループ分けのプレテストで、その単元に合った復習問題を出し、既習事項の定着度を調べ、個に応じた指導をしていく。
	・課題解決の際、自分の考えをもって問題を解くことができるが、発展的な問題に対応できる力を身に付ける必要がある。	・課題解決ができるように、個人、全体で考える時間を授業の中に設ける。 ・授業のはじめに復習プリントなどで既習事項を活用した問題を繰り返し練習し、定着できるようにしていく。また、前時に行った学習の内容を復習する練習問題もプリントに加え、取り組ませる。
	・問題を解くことができていても、論理立てて説明する力を身に付ける必要がある。	・図や式、言葉を用いて考えをノートに書かせ、実物投影機などに映して分かりやすく説明できるようにさせる。
理科	・実験や観察に意欲的に取り組み、自分の考えを進んで表現する児童が多い。今後は、根拠を基に考えを深める力をさらに伸ばしていく必要がある。	・予想の根拠を説明したり、互いの考えを比較したりする活動を充実させ、科学的な根拠を基に考える力を育成する。
	・条件を意識して実験方法を考えることができる	・条件制御を意識した実験計画を考える場を継続的に

よりよい授業をめざして　～授業改善推進プラン～　　６年

	実態・課題分析	授業改善の手だて
国語	・自分の思いや考えを文章で書くことに対する苦手意識をもつ児童が目立つ。また、構成を考えたり、表現の工夫を身に付けたりすることに課題がある。	・授業の中で①考えをもつ②交流する③深めるという活動を常時的に行い、成功体験につなげていく。
	・要旨をまとめる能力の個人差が大きい。	・文章から重要な語を抜き出す練習を繰り返し行い、その語をつなげてまとめる練習や互いの文章を見合う活動を多く取り入れる。
	・文章の中で適切に漢字を使ったり、語句の意味を正確に理解したりすることに課題がある。	・これまでの既習漢字を忘れていることが多いため、復習も取り入れながら定着させていく。
	・漢字の学習への意欲や定着率が低い。	・漢字の学習を体系化し、一人で進められるように指導する。小テストをこまめに行い、定着を図る。熟語調べも積極的に行わせる。
	・全国学力・学力状況調査では、例年「目的に応じて文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるか」という問題で、当てはまるもの内容を正しく選択したり、自分で考えを書いたりするところに課題がある。	・文章の構成について考えることができるよう、説明文を読む機会を多く取り入れ、必要な情報を見付ける活動に慣れさせる。 ・単元末には、学習感想を書く活動を取り入れ、学んだことを生かして書く習慣を付ける。また、友達の感想等にも触れ、考えや書き方の幅を広げる機会をつくる。
社会	・資料を読み取り、読み取った情報に対して自分の考えをもつことについて課題がある。	・注目する資料を明確にする。読み取った情報から何が分かるか、ペアやグループで考えさせる時間を設ける。 ・資料から何が分かるか予想する時間を設ける。
	・基礎的な知識の定着に課題がある。言葉の意味が分かっていない。知識が点と点になっていて繋がりがない。	・用語が出てきたときに一人１台端末を使い調べる等、内容と共に覚えられるようにする。
	・問いを正しく読み取り、問いに対して正対した解答をすることに課題がある。	・１時間の学習で学んだことを自分でまとめる活動を取り入れる。
	・単元ごとのまとめで自分の意見を書く力を身に付ける必要がある。	・単元ごとのまとめは、まとめ方のひな型を示し、重要語句を埋める、書き出しを指定するなど、段階を追って自分でまとめられるようにしていく。
算数	・基礎、基本の学習や既習事項が定着している児童と、していない児童の個人差が大きい。	・練習問題とともに、公式を繰り返し使ったり、振り返ったりする時間を設ける。 ・レディネステストで、児童の習熟度を診断し、実態に応じたグループ編成や授業展開を行う。
	・基礎的な内容が定着している児童が多い反面、応用問題や思考力を問われる問題には課題がある。	・既習事項を生かして解く問題を様々な解き方で解き、ペア学習などで解き方などを説明し合う経験を積む。 ・問題文を正確に読む練習を積み、問われていることが何